

サトウタツヤ

立命館大学文学部教授・研究部長。日本心理学会教育研究委員会資料保存小委員会委員長。今回はスイスの心理学、第2回目です。



前回は、スイス心理学の創設者・フルルノワ (Théodore Flournoy; 1854-1920) について書きました。

スイスの心理学界においてフルルノワを助けたのが、イトコでもあったクラパレード (Edouard Claparède; 1873-1940) です。1904年以降、ジュネーブ大学の心理学実験室の長となり、研究に従事しました。フロイトの研究や思想に興味をもち、フロイトがアメリカ・クラーク大学で行った講演録 (1909) をフランス語に翻訳して紹介しました。このフロイトの講演は、自ら精神分析をアメリカに紹介した講演として知られています。

クラパレードの活動は——他の多くの人と同様、ほとんど顧みられていませんが——かなり幅広いものであり、特に、応用心理学の方面での活躍が著しい人でした。著書に『子どもの心理学と実験教育学』があります。その学風は一言で言えば、機能主義です。

さて、クラパレードはジュネーブ大学に、教育理論を実践に移す場としてのルソー研究所を設立しました (1912)。この研究所は、



写真1 Edouard Claparède le jour du mariage de Piaget. (©Fondation Jean Piaget 2014)

子どもたちに教育カリキュラムを提供するという意味では一種の私立学校でもあり、教育の中心を子どもに移すという目的のもと設立されたのです。「自然に還れ」はルソーのキャッチフレーズですが、研究所にルソーの名前が冠されているのはそうした理由がありました。そして、1921年、この研究所に赴任したのが1918年に博士号をとったジャン・ピアジェ (1896-1980) でした。

写真1は、1924年、ピアジェの結婚式の時の写真です。残念ながらピアジェは写っていませんが、中央にいるのがクラパレードです。ルソー研究所は1925年には国際教育局を設立したのですが、ピアジェはその局長になりました (彼はこの役割に1968年まで従事していました)。

写真2は1927年のルソー研究所の庭におけるクラパレードとルソーです。左から四人目がピアジェ、右側の二人の女性の帽子の間に見えるのがクラパレードです。

スイスはその地理的条件からも、多言語条件からも、さまざまな心理学者が集うのに最適な場所の一つでした。第一次世界大戦後、心理学は他の学問同様、ドイツと他国との



写真2 Piaget et Claparède dans le jardin de l'Institut Jean-Jacques Rousseau, en 1927. (©Fondation Jean Piaget 2014)

間に緊張が走っていましたが、その緊張を解消しスイスという地の利を得て心理学をまとめあげたのがクラパレードだったのです。1920年には心理技術に関する会議が1920年にジュネーブ大学・ルソー研究所で行われることになりました。振り返ってみると、フランスの心理学者・ピネが有用な知能検査を発表したのは1905年のことでした。その後のさまざまな開発ラッシュ使用ブームの状況において、クラパレードは検査の濫用 (abuse) の問題を憂慮し、専門家が会合をもつことの重要性を訴えたのでした。この会合は国際応用心理学会へと発展していくこととなります。

参考文献

Carpintero, H. & Herrero, F. (2002) Early applied psychology: The early days of the IAAP. *European Psychologist*, 7, 39-52.